

会 議 録

会議名	令和元年度第2回東浦町社会教育委員会	
開催日時	令和元年 11 月 6 日（水） 午前 10 時から午前 11 時 50 分まで	
開催場所	東浦町中央図書館 大会議室	
出席者	委員	石原弘幸氏、松下玲子氏、平井伸幸氏、二宮邦子氏、 水野智美氏、高崎義幸氏、延永保二氏、月原康雄氏、 外山淳子氏、西村加絵氏、杉浦義治氏
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、図書館長、 スポーツ課長、生涯学習係長、文化財係長、 図書館係長、生涯学習課主査、生涯学習指導員
欠席者	久米さちへ氏、	
議題	1 ジュニアリーダー事業の今後について 2 東浦町中央図書館視聴覚コーナーの再編について 3 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容	◆生涯学習課長 新委員の自己紹介。 次第に従い会を進める。 委員長より挨拶をいただく。 ◇委員長 （挨拶） ◆生涯学習課長 教育長より挨拶をいただく。 ◆教育長 （挨拶） 以降は委員長が議事を取り回す。 ◇委員長 次第に従い、議事を進める。次第1「ジュニアリーダー事業の今後について」を議題とし、事務局から説明を求める。 ◆事務局 生涯学習課係長による説明。 ◇委員長 平成29年度報告の「ジュニアリーダーに関する研究」については、平成28・29年度に、社会教育委員で小委員会を設けて、「ジ	

ジュニアリーダーの育成事業」について調査・研究して教育長に提出した。その報告をもとに、生涯学習課では、ここ2年間はジュニアリーダー事業のプログラムを変更して、「職場体験」やふるさとボランティアの方に案内していただいたの「自分の住む町についての興味関心を育てる体験」を取り入れた。しかし、課題がなかなか解消できず、今回新たな提案が出された。「こどものまち」という事業が活性化しているので、この中に取り組んで発展させていくという提案について委員の意見を募る。

◇委員

この事業に、中学生がいないのは以前から課題となっていた。「リーダー」になる子を受け入れようとする、そういう子は部活動などでも忙しい。しかし、少子化になってきて、子どもたちの考え方も多様化してきて、学校の部活動も限られてきている。そういう中で、社会活動に自分の自尊感情を高めるチャンスがあるかもしれない。人権委員として、中学生サポーターに委嘱してシルバーフェスタを昨年度までやってきた。一昨年度は北部中学校の生徒が活躍してくれた。また、今年度は、東浦中学校の生徒が「絆まつり」でサポートしてくれ、障害者とも接することができた。部活動とは違う選択肢として、「こどものまち」でもいいので、考えていくことが大切である。

◇委員長

中学生の参加については研究でも考えてきたが、なかなか多忙で参加してくれなかった。「ジュニアリーダー」という名前から大変なことをすると思って遠慮しているのかもしれない。中学生が取り組んでいく施策があるといいと思って考えてきた。余裕のある中学生が参加できるように、「ジュニアリーダー」から新たな名称に変わると取り組めるのではと考える。

◇委員

私も、子どもの側から考えると、「ジュニアリーダー」という名前に抵抗をもっていた。大人の側からすると、楽しく活動させながらリーダーを育てたいと考えているが、子どもたちにとっては、リーダー育成の場と考えられると困ってしまい、楽しみの場でなければ負担になってくる。平成26年度から行われている「こどものまち」は、興味をもってみている。この企画は、子どもたちの活動が主体で、子どもたちにとって楽しめるものである。「ジュニアリーダー」と「こどものまち」が併設していることは問題だと思う。提案されたように、融合していく必要があると思う。ジュニアリーダーを育てるという思惑を出さず、子どもたちの活動を広げていく立場で呼びかけを進めていくことが第1段階だと考える。

◇委員

ジュニアリーダーは、中学生になると急に減ると言われたが、高校生以上は何人参加しているか。

◆事務局

ゼロです。リーダー育成のために継続的な取り組みをどうしたらいいか検討しているところである。

◇委員

最近の中学生の忙しさはわからないが、自分と向き合って活動したり、地域の活動に参加したりする回数は減ってきていると思う。ただ、「こどものまち」では、昨年度参加がゼロだったものが、今年度参加 18 名になっている。こういう取り組みのように、中学生の自主的参加を伸ばすようにしていってもらえればいい。

◇委員長

ジュニアリーダーの指導者は、現在 3 名である。そのうちの一人は、ジュニアリーダー事業に参加して、高校生になって指導者になっているという成果も出てきている。しかし、ジュニアリーダーの育成で、ふるさとガイドのスタッフとして、東浦町の遺跡をいっしょに巡ると、「こどものまち」に参加している子どもたちと比べて、エネルギー不足を感じることがある。生き生きとした活動が欲しいと思っていた。

◇委員

ジュニアリーダー事業について研究してきたが、「ジュニアリーダー」という言葉は、強いリーダーでみんなを引っ張っていくというイメージがある。しかし、今の中学生にはそんなリーダーはなかなかいない。みんなを引っ張っていくという意味で考えると、今の情勢にはあっていない。ラグビーの監督の講演を聞く機会があった。その中で、「強いリーダーがいるのはもちろんいいが、そのリーダーがけがなどでいなくなるとチームがうまく機能しなくなる。チーム一人ひとりのやる気をいかに出させて、チームとしてまとめていけるかを考えて取り組んだ結果、優勝につながった」という話であった。「こどものまち」では、中学生が地元の中で社会と関わる機会を作ってもらえるとありがたい。

◇委員

東浦中学校に勤務して 15 年ほどになる。赴任した時は、学校が大変な時期であったが、リーダー的な生徒が何人かいた。今は、落ち着いた学校であるが、子どもの質が変わったのか目立つのが苦手な生徒が多い。生徒会立候補者も、先生が声をかけるようになった。生徒が輝くときは、仲間と協力して活動するときである。チョボラなどの時は、一所懸命働いてくれる。しかし、中心にな

ってやってほしいとか責任をもってやってほしいと依頼するとやってくれない。数人でやってほしいという働きかけをしている。

◇委員長

実際に子どもたちを見ている先生から貴重なお話をいただいた。これまで出された意見を参考に、生涯学習課で計画を練っていただき、今後の移行をスムーズにやっていただきたい。

◇委員

来年度から移行するのか。

◆事務局

町としては、この時期に来年度の予算を編成しているので、早ければ予算の段階から切り替えていきたいと考えている。

貴重なご意見をありがとうございました。「ジュニアリーダー事業」について、中学生が参加しないということを、私たちは部活動をはじめとして忙しいというところに目がいていた。しかし、お話を伺う中で、中学生は思春期であり、名称も敷居が高いということが理解できた。名称については、以前から指摘いただいていたが、なかなか対応できていなかった。また、小学生・中学生が楽しんでやれるカリキュラムを考えてきたが、自分たちで考えてやる部分がほとんどなかった。「こどものまち」では、自分たちで出店について考えて進めていくので、おもしろみがあり参加してくれているということが分かってきた。

皆様方のご意見を参考にして、「こどものまち」でどう展開していくかも検討しながら、本日提案した方向で進めていきたい。

◇委員

提案に賛成だが、「こどものまち」という名称を考えてほしい。大人の思惑がみられるので、「にこにこタウン」や「わたしたちのまち」と変えたほうが集まってくると思う。

◇委員

東海市でも同じようなイベントをやっている。星城大学のまちづくりサークルが関わっている「子ども商店街」である。東海市役所・NPO法人などと連携して行っている。「にこにこタウン」を進めていくには、大人の協力が必要である。地元の高校生や大学生、NPO法人を巻き込んでいくと、さらに充実したものになっていくと思われる。

◇委員長

次第1「ジュニアリーダー事業の今後について」の議題の終了を宣告。

次第２「東浦町中央図書館視聴覚コーナーの再編について」を議題とし、事務局から説明を求める。

◆事務局

図書館係長による説明と現地見学。

◇委員長

じっくり見学させてもらって、改めてブラウジングコーナーが広いことが分かった。私的には、ブラウジングコーナーが残っているのはありがたい。提案について委員の意見を募る。

◇委員

「図書館を考えるワークショップ」が提案したグループＡのレイアウトでは、パソコンやタブレットの貸し出しを行うということか。

◆事務局

そのとおりです。

◇委員

電気配線のため床を１０センチかさ上げするとのことだが、スロープをつけてバリアフリーにするのか。また、飲食可能とするスペースは、視聴覚コーナー全体か、一部か教えてほしい。

◆事務局

ＯＡフロア化するため１０センチかさ上げするので、現状は２箇所スロープにする予定である。しかし、２箇所では少ないという意見もあり、全体的にスロープにした場合についても業者と相談して見積もりを出していきたい。ただ、まだレイアウトの段階であり、どこまでＯＡ化するか決定していないので、なるべく段差をつけないようにしたい。電気配線が決まったら、その部分だけをかさ上げするか検討し、段差ができる部分にはスロープをつけるように対応したい。

飲食可能エリアについては、現時点では、ブラウジングコーナー、視聴覚コーナー全面として、飲みながら本を読んだりＤＶＤを視聴したりすることができるように考えている。

◇委員

飲食コーナーを全面にしたのは思い切った計画だと感心している。しかし、パソコンのキーボード上にコーヒーをこぼす恐れもあるので、飲食コーナーをフロアのまん中など範囲を区切ることも考えられる。区切る場合は、小学生でも分かるように、Ｐタイルの色を変えるなどしてもらえるとありがたい。

	◇委員長 視聴覚コーナーの再編に関連して、どのような視聴覚機器を購入する予定か。 ◆事務局 現状は、DVD・VHS・LDが視聴できるモニター席とCD・カセットテープが視聴できる窓側の個人用の席というようになっている。 視聴覚コーナーの再編のタイミングで、現在の利用状況や再生する機器が生産されていないことを考慮して、LD・VHS・カセットテープの機器を廃止したい。新しく購入する機器として、DVD・CDが視聴できるものを考えている。 ◇委員 VHS・カセットテープを廃止すると説明があったが、そうするとソフトがあっても視聴できなくなるので、機器が故障するまで置いておいたらどうか。また。そのような機器は、自分の家から持ってきたソフトなども利用できるようにするのも一考である。捨てるのは簡単だが、サービスとして活用してはどうか。 ◇委員長 昨年、郷土資料館では、昔のレコード鑑賞も行われている。できることがあれば考えてほしい。 ◇委員長 次第2「東浦町中央図書館視聴覚コーナーの再編について」の議題の終了を宣告。 次第3「その他」について、事務局に確認する。 ◆事務局 特にありません。 ◇委員長 その他の案件がないことを確認し、議事の終了を宣告。 ◆事務局 次回の委員会について連絡。次回は、3月に予定。日時は後日連絡。
備考	なし